

醸造協会



2月号をお届けします。少しずつ春の気配が感じられる頃です。執筆時点では、まだお正月気分が抜けていない状態ですが、皆様はどのようなお正月をお過ごしになったのでしょうか。今年のお正月は、全国的に気温が高めで穏やかな天気だったようです。関東地方では最高気温が10℃を超える日が続きました。筆者は昨年まで岩手県盛岡市に住んでいましたが、最高気温が10℃以上を超えると春の到来を感じたものでした。今年は積雪も少なく、スキー場など雪が売り物の観光地では困っているとのこと。

筆者は、大晦日から元旦にかけて初詣を兼ねて、「王子狐の行列」を見物に行ってきました。王子駅から少し離れた裏通りにある装束稲荷神社が出发点です。昔この付近に大きな榎の木があり、その下に関東各地の狐が集まり、衣装を整え行列をなして王子稲荷へ参拝したとの言い伝えがあるそうです。それにちなんだとのことですが、年越しイベントとしての狐の行列は比較的新しく、平成5年度が最初だそうです。行列が通る沿道は大変な人出で、1月1日午前零時を過ぎると、大きな狐のお面を先頭に、和服に狐のお面をつけたり顔を狐のようにメイクした人々の行列がゆっくりと行進してきました。先頭にお囃子の人達がいるものの、比較的静かでおごそかな行列でした。年越しに日本情緒を味わえるということで外国人に人気で、周りからは英語や中国語の会話が多く聞こえました。行列は約1時間半で王子稲荷神社に到着し、神社内の舞台上で狐囃子と舞が奉納されました。

昨年のことになりますが、年末には様々なジャンルの10大ニュースが発表されます。アメリカの科学雑誌サイエンスの10大ニュースのトップは、「史上初のブラックホールの画像」でした。ブラックホールは、天文学的な単位からすれば非常に小さく、その重さのために光も吸収してしまうため観測が困難でした。今回の画像は、私たちの銀河に比較的近い銀河の中心にある太陽の65億倍もの質量をもつ超大質量ブラックホールを対象にして、研究者の国際チームが数多くの電波望遠鏡のデータを複合して解析して得られました。画像では、暗黒のブラックホールの周りがリング状に光っているのが見えます。画像を最初に見た研究者は、「地獄の門を見ているような気がした。」と言っていました。やはり、画像のインパクトは大きく、見ているとブラックホールの実在性が感じられます。

また、日本チームの研究も取り上げられていました。海洋研究開発機構の研究者らは、今までDNA配列でのみ確認されていたアスガルド古細菌の一種の培養に成功し、詳しい生理学的・分子生物学的解析をおこないました。アスガルド古細菌は、真核生物の起源である可能性があることから注目されていますが、培養することが困難でなかなか実態がわかりませんでした。今回の菌は熊野沖の深海から採取されたとのことですが、細胞分裂速度がきわめて遅く、しかも、他の菌との共生でのみ増殖するという点で研究は困難を極めたようです。細胞内に真核細胞のような構造体は認められなかったものの、ゲノムには真核生物特有の遺伝子が多数含まれており、生きている菌としては系統的に最も真核生物に近い古細菌とのこと。著者らは、この菌が好気性のバクテリアを細胞内に取り込んでミトコンドリアとしたというモデルを提唱しています。

醸造協会のトピックスとしては、1月から老香前駆体低生産性酵母の試験販売を開始いたしました。すでに数多くの問い合わせとご注文をいただいております。酵母の特徴をまとめた資料も用意しておりますので、ご興味のある方は係までお問い合わせください。

